

ひせんだより

肥前精神医療センター総合情報誌

第36号

Contents

- P1 ・院長、副院長メッセージ
- P2 ・病院機能評価を受審して
- P3 ・2022年度佐賀県認知症県民公開講座の開催
- P4 ・看護職員就職説明会に参加して
- P5 ・佐賀県 DPAT 隊員養成研修開催報告
- P6 ・手作りピザを楽しんでみませんか？

2023.春号



新しい「ひぜん」への期待

杠 岳文

病院の玄関周りや病棟西側の桜の木が3月末には見事に咲誇り、また新しい年度を迎えることになります。私は平成8年6月に当院に着任して、26年10か月もの間肥前精神医療センターにお世話になり、幸いに26回もこの景色を見ることができました。この間国立病院から独立行政法人化し組織運営面でも大きな転換期もありました。新型コロナパンデミックもありましたが、皆様方のご協力を得て何とか乗り切ることができます。お付き合いいただいた職員の皆様、患者さんとご家族の皆さんに心より感謝申し上げます。私はこの3月で定年を迎え次世代の方々にこの病院の運営を引き継ぐことになりますが、院長就任当初より目標としておりました外来管理棟新築とそれに伴う旧管理棟への大学院大学誘致といった事業は、残念ながら在任中に実現することができませんでした。期待されていた皆様にお詫び申し上げます。

当院は、自然と人が集まるような便利な場所にはありません。患者さんにとっても職員にとっても魅力的であり、注目され信頼される存在でないと人は集まらず、廃れます。私たちは、このことをむしろエネルギーにして、新しい取り組みや知見を県内外に向かって情報発信してきました。今後も患者さんとご家族の気持ちと多職種チームメンバーを慮る「想像力」と、新しい精神科医療を造り出す「創造力」を磨いて頂くことを期待しています。

みなさんごきげんよう

橋本 喜次郎

九州大学精神科の同門会雑誌の巻頭言を依頼されたのは、副院長になって3年目の2013年でした。もう10年前でしょうか。その中で、肥前で共に働く機会を得た医師の数を概算したことがあります。その当時で、常勤医師203名、非常勤医師112名に昇り、約300名以上の医師と共に汗をかいたことは、長期在院にも有難い面がありますなどと書いた記憶があります。これが、医師だけでなく看護、コメディカル、事務職、行政ほかその他関係者を含めると、職務上お付き合いくださった方々は優にその数十倍になるでしょう。

その時からさらに10年が経ち、大きな節目が来ました。さらに様々な方々とお会いできました。数十年來の付き合いのある患者さん方はもちろん、医師、看護師、コメディカル、・事務、何千人でしょうか？万に及ぶかもしれません。改めて感謝です。

医学部を卒業して医師となり、その職業上、通して知り合う方々は、殆どが医療従事者か、医療に関連する方々と言えましょう。その一方で素朴な疑問として、私、橋本個人私人として知り合った人は、果たしてどれくらいなんだろうか？と。

ここ数年、たまさかなのか、定めなのかわかりませんが、実家の資産清算と管理作業に関わって来ました。その過程に於いて、医療従事者ではない、様々な業界、医業ならぬ異業、たとえば、飲食、小売、イベント、音楽、ダンス、設計、IT、などなどに携わる方々と会う機会に恵まれています。医療を通して知り得た方々とは、また異なるエネルギーを持った別世界の方々で、この節目を境に人の出会いの様相が変わり、これまで以上に期待しています。もちろん皆様方とは、医業は続けますので、医療の場を通してお会いする機会もありますが、異業の場でも偶然お会いするかもしれません。その際は、医師という職業を外して、私、橋本個人として新しい楽しい話ができるればと思います、みなさま、ご機嫌よう。



病院機能評価を受審して

企画課長 相島 正子

当院は、令和3年9月に主たる機能種別「精神科病院」の認定5回目を目指し準備を進めていましたが、令和3年3月末から新型コロナウイルス感染症の病棟クラスターや委託業務に従事する職員のクラスター等が発生し、病院全体が対応に追われ、病院機能評価受審の準備がなかなか進まず、受審を1年延期することになりました。当時私は管理課長であり、受審が先延ばしになったことで、準備する時間が長くなつたと正直安堵していました。

しかし令和4年4月に企画課長に配置換えとなり、病院機能評価受審の窓口担当者となつたことで、状況は一変！一気に目の色が変わり（本心は大丈夫だろうか）、受審まであと何日・・・とカウントダウンの日々が始まりました。

デルタ株からオミクロン株へ次々に新型コロナウイルス感染症が押し寄せ、病院への持ち込みがない様スタッフ一丸となり感染対策をする中、自己評価調査票や現況調査票などの事前提出資料の作成に各部門から協力をいただきながら、5月27日にプレ審査を受審し、本受審までの課題がはっきり見えてきました。

サーベイナーの方からは、色々なアドバイスを頂きましたが、特に「アピールポイントを探してアピールすること」は、自院を今一度見つめ直し、良いところをアピールしなければという意識が職員に高まりました。

前回の更新を当院で経験した職員はごく僅かで、プレ審査を受審したことは大変有意義であったと実感しました。

直前まで準備に追われ、受審前には院内感染やクラスターの状況次第では受審が延期になる可能性があることの通知を受け、また直前に台風によりサーベイナーの先生方の来院も危ぶまれ、ハラハラドキドキ最後は神頼みでしたが、何とか9月の受審にこぎつけました。当日は限られた時間の中、当院の日本一長い中央廊下（約490メートル）を移動しながら、各部門精一杯のアピールが

出来ました。年末の12月26日に認定証が届き、無事に更新が出来たことにホッと一安心ですが、評価頂いた内容を維持しながら更に発展していくことが今後の病院運営に活きてくると思います。次回の更新時は、受審の準備に専念出来ることと思いますが、大変な状況の中、職員一丸で乗り越えたことに感謝いたします。

最後に、重い資料等を手に持って移動されていたサーベイナーの方々に使用していただき好評を得ました、肥前精神医療センターのバックを紹介します。



2022年度佐賀県認知症県民公開講座

さがん☆認知症フォーラム in 神埼&吉野ヶ里 —わたしたちは認知症の人をどうみてきたか— の開催

ソーシャルワーカー 佐々木 玲子

令和5年1月28日「さがん☆認知症フォーラム in 神埼 & 吉野ヶ里」が開催されました。フォーラムは認知症疾患医療センターの役割でもある地域への情報発信として、当センター・神埼市・吉野ヶ里町の共同主催で今年度は吉野ヶ里町文化体育館で開催する運びとなりました。

前回のフォーラム開催後のアンケート調査で地域の方々は「認知症予防について」「認知症の当事者、そのご家族の体験談」「認知症の方との関わり方」などに关心が高いことが分かり、今年度は下記の4つのプログラムでフォーラムが構成されました。

- ① 「ひぜん☆いきいき脳活クラブ」を体験しよう —みんなで実践する認知症予防—
- ② 講演 「仲間がいるっていい！」 一人人・家族が励ましあい助けあう「認知症の人と家族の会」—
- ③ 特別講演 小説・映画に描かれた高齢者 —「恍惚の人」からの半世紀をたどる—
- ④ トーク・セッション 社会は認知症のひとをどうみてきたか？ —認知症支援につながる視点を探る—



「ひぜん☆いきいき脳活クラブ」を体験しようでは、認知症疾患医療センター長の橋本学先生の進行で、お薬の話に始まり、日常生活の「買い物」「車の運転」などに絡め“認知症の症状でもある記憶障害や注意障害”的説明をしていただきました。また、認知症予防として当院で行っているひぜん☆いきいき脳活クラブでも講師としてお越し頂いている武藤先生のご指導でヨーガを参加者全員で体験しました。

講演では認知症の人と家族の会佐賀県支部世話人 野口佳代子先生よりご家族の介護を通して「認知症の人と家族の会」との出会いや、相談に来られる当事者・ご家族に寄り添いながら活動をされている現状をお話しいただきました。

特別講演では当センター杠院長の司会で進行。桜美林大学老年研究所所属の城戸亜希子先生より有吉佐和子の「恍惚の人」の小説から認知症が社会的に知られるようになったことや、戦前からの認知症（当時は痴呆）が小説・ドラマ・映画でどう取り上げられてきたか、時代背景も説明していただきながらその変遷をお話しいただきました。

トーク・セッションではプログラム①～③で登壇された野口先生、城戸先生、杠院長、橋本先生よりそれぞれの立場で認知症とどう向き合ってきたのか、現代では特別な病気ではなくなった「認知症」に対してどう向き合っていくのかをお話しいただきました。

会場ロビーには認知症の検査の体験コーナーが設置されており、参加者の皆さんが楽しまれています。



令和6年度採用(令和5年度実施)
国立病院機構九州グループ主催

教育担当師長 副島 理沙

● ● ● 看護職員就職説明会に参加して

コロナの影響で対面開催が中止になっていた国立病院機構九州グループ主催の看護職員就職説明会が3年ぶりに開催されました。肥前精神医療センターは、九州県内5カ所で実施される就職説明会のうち2月に大分会場と鹿児島会場へ参加しました。

ブースの対応で印象的だったのは、「精神科に興味はあるけど、精神看護学実習に行けなかったから、イメージがわからなくて踏み出せない。」といれる看護学生さんが多かったことです。今回の就職説明会では、肥前精神医療センターの看護を通して精神科看護の魅力を伝えられるよう工夫しました。ここでの出会いをきっかけとして病院見学にも来ていただければ、より肥前の良さを伝えられると思っています。

一方で、人材確保の観点から実習の場の提供について意義を見直す機会ともなりました。今後は、JR九州ホールで行われる福岡会場に参加予定です。



就職説明会 九州グループ主催

開催県	日付	会場
大分	令和5年2月4日(土)	別府ビーコンプラザ
鹿児島	令和5年2月12日(日)	かごしま県民交流センター
熊本	令和5年2月25日(土)	くまもと県民交流館パレア
福岡	令和5年3月11日(土)	JR九州ホール
長崎	令和5年3月18日(土)	長崎ブリックホール
WEB	令和5年4月22日(土) 令和5年4月23日(日)	各病院からWEB



佐賀県DPAT隊員養成研修 開催報告

リハビリテーション科 平位 和寛

令和5年1月28-29日の2日間で佐賀県DPAT(災害派遣精神科医療チーム)の養成研修が開催されました。今年で“第8回”を数えるこの研修は『県内外で発生する災害時に精神保健医療ニーズに対応するための医療チーム』の養成が目的で、佐賀県からの委託を受けて2015年から開催しています。

研修会全体の様子 ▶



▲演習の様子(トランシーバー)

今年度は医師3名、看護師12名、そのほか業務調整員(事務、心理師、精神保健福祉士、行政職員等)11名が参加し、災害時に必要となる知識や活動を想定した活動演習、実災害で使用する機器(衛星電話やトランシーバーなど)を使用した実技訓練や災害時に連携する諸団体について学び、実災害での活動がより円滑に行えるような研修を実施しています。

また矢田部裕介医師(玉名病院/熊本県玉名市)に「熊本県で発生した災害から得られる教訓」を踏まえた講義を行っていただき、実災害での経験を踏まえた対応の必要性、被災者一人ひとりに寄り添う支援の在り方について理解を深めたところです。

特に昨今は感染症クラスターでの活動も想定され、避難所などで活動する際の感染症の知識や対策などについて当院の感染管理認定看護師の富田泉看護師に講義を行ってもらいました。



▲富田看護師の講義



▲黒田障害福祉課長の挨拶(佐賀県庁)

最後になりますが“災害”はいつ起きてても、どこで起きててもおかしくないことです。
災害があってからでは、対応も後手、後手になってしまないので、普段からの準備が必要となります。
災害時の医療活動に関心がある、またはそのような活動を一緒にしてみたいと思う人は、ぜひ一緒に活動できればと思いますので、お声かけください。



手作りピザを楽しんでみませんか？

栄養管理室 上野 佳代子



みなさん、ピザは好きですか？我が家では、月に数回ピザが食卓に並びます。

朝食や昼食にすることもあれば、夕食にちょっとつまんだり。スーパーで買えることもできますが、自分好みのアレンジもできるため家庭で手作りすることをお勧めです。また小さいお子さんがいらっしゃる場合には、一緒にやわらかい生地の感触を楽しんだり、トッピングをするのも良いですね。

材 料

(直径18cm程度 2枚分)

ピザ生地

強力粉	125g
薄力粉	25g
塩	1g
ドライイースト	2g
水	85g
オリーブ油	5g

トッピング等

- ・ピザソース
- ・ウインナー
- ・コーン
- ・たまねぎ
- ・トマト
- ・ツナ
- ・とろけるチーズ

など好みのものを



生地の作り方

- ① ボールに強力粉、薄力粉、塩、イースト、水を混ぜ、台の上で良くこねる。手にくっつかなくなるまでしっかりとこねて生地がまとまったらオリーブ油を加え、なじませるように更にこねる。
- ② 生地がひとかたまりになったら、ボールに戻し、上からラップをして暖かいところで30分程度（約2倍になるまで）発酵させる。
- ③ ②の生地を2等分にして濡れ布巾をかけ15分程度生地を休ませる。
- ④ ③の生地を直径18cm程度の円形に手でゆっくり伸ばしていき、フライパンの上に乗せる。
- ⑤ ④にピザソースを塗り、好みのトッピングして弱火で2分程度加熱する（縁がふくら持ち上がってきます）。
(写真1)
- ⑥ ⑤のピザを魚焼きグリルに移し（写真2）、さらに5分程度こんがり焼き色がつくまで加熱する。
- ⑦ グリルから取り出し、好みのサイズにカットする。



写真1



写真2

患者の権利

1. 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
2. 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利
3. 治療法を自由に選択し、決定する権利
4. プライバシーが守られる権利
5. 常に人としての尊厳を守られる権利
6. 医療上の苦情を申し立てる権利
7. 繼続して一貫した医療を受ける権利
8. QOLや生活背景に配慮された医療を受ける権利



患者の義務

1. 情報を提供する義務
2. 状況を確認する義務
3. 診療に協力する義務
4. 医療費を支払う義務



◆編集後記◆

令和5年3月31日をもって肥前精神医療センターの発展に長年貢献された杠岳文院長及び橋本喜次郎副院長がご退任されます。お二方のこれまでのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念しております。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症への対応で例年とは違う一年となりましたが、ようやく出口も見えてきました。新年度は様々な行事等をひぜんだよりで紹介できることを願っています。今後とも変わらぬご高配を賜りますよう、お願い申し上げます。



編集部

令和5年3月発行

編集・発行：広報委員会 委員長：橋本（喜） 副委員長：村川、橋木

委員：森松、廣瀬、相島、河淵、大迫、岡田、糸永、井村、佐々木、染川、福成、下川

発行所：独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター

